

信仰によって生きる

創世記12：1～4

ヘブライ人への手紙11：1～3

4月1日より大阪から海老名に妻と共に赴任しました鈴木淳一です。これから皆様と共に礼拝を守れることを嬉しく思います。コロナ騒ぎの中で落ち着かないまま赴任しましたが、これも主の試練と受け止めていきたいと思えます。今日は棕櫚の主日ですので、本来ならばそれにふさわしい聖書箇所です。今日この日は語ってきましたが、今回は新しい歩みを覚えて新年度の標語で説教を語りたいと思えます。

ヘブライ人への手紙の著者はその文体からしてかなり教養があったものと推測されます。信仰は望んでいるものを確信することとありますが、この確信というのは下から支えるという実体や本質という哲学用語でもあります。神学的には神が父であり子であり聖霊であるというような本質を指し示す言葉です。ところが今日ではこの言葉がどのように使われているかといえば土地などの不動産の権利書ということだそうです。二千年間で言葉の使われ方は変遷したことでしょうが、あえてそれを踏まえて今日の使われ方に注目してみれば、信仰というのは例えばまだ見たことのない希望という山の不動産の権利書を与えるものであるというようなものではないでしょうか。またそれに続き信仰とは見えない事実を確認することであると言います。ここで言う確認とはこれも今日では会計監査、生徒の通知表、車内の改札などの意味があるそうです。いわば本来審かにして査定するという意味でしょう。信仰はまだ見えないものを検分済とする。人間には詳細に突き詰められれば必ず穴があるものですが、それでもよしとされる信仰義認のようなものではないでしょうか。昔の人たちはこの信仰によって神に認められました。ここで「昔の人」というのは別の意味で年長者や長老という意味もあります。4節以降に出てくる人たちがそれに当たります。ここでは「信仰によって」という言葉が連発されます。

その中の一人、信仰の父であるアブラハムに注目しましょう。彼は神の命令によって75歳で故郷を離れます。75年間も住んだ住み慣れたところを老年になって離れるのはしんどいものです。見慣れた風景、山、川、町並み、自分の家、親しい親戚や友人近所の人、財産、思い出を残して旅立つのです。それも厳しい旅です。荒野で水や食料も得られるか分かりません。強盗や他の部族との諍い、野獣などの危険な動物が現れます。若い時、少しぐらいのトラブルは思い出になってトラベルだなどという悠長なものではないのです。生死をかけた旅であります。彼はただ神の言葉に従って旅立ったのです。旅立つアブラハムにとって旅の計画など見えてこないものでした。すると信仰とは見えている目標に向かって計画を立て一步一步確実に進んでいくようなものではないのでしょうか。

3節「信仰によって（わたしどもは）・・・わかる」とあります。「見ること」は「知ること」であるというように語義からは考えられもします。たとえば「見える」というのが「わかった」：I see (you)を思い浮かべますがこれは英語に限ったことではありません。私どもは目に見えるものがすべてであり現実であり確かであるような気がしてしまうのです。よく人間の外部からの感覚の情報の8～9割は視覚だと言われます。お祈りする時に目を閉じるのは外界からの情報をシャットダウンして内省するためです。では本当に目に見えるものが現実の大部分であるのでしょうか。よく考えれば見えないものの方が多いのではないのでしょうか。空気、真実の愛、心など大切なものには見えないものが多いのではないのでしょうか。人間、生き物が生存に一番必要なのは空気（これがないと何分も命が持たない）ですが、それは見えません。そしてまたそれはお金がかかりません。いのちに必要なものほど安いのです。高価な指輪や宝石、高級車飛行機があればよし、また便利ですがそれがなくても人は生きてはいけるでしょ

う。空気、水（いずれは富士山の空気のようなものも販売されるかもしれませんが）本当の愛、キリストの十字架の愛も無償であり、見えません。ウィルスは別の観点から見えないものですが、人の命をおびやかす重大なものです。この世には目に見えない大切なもの、重大なものが目に見えるものより多くあるのです。

このような世界が神の言葉によって創造され——「この世界」とは時間的に歴史を通して繰り広げられている世界ですが——これは神の言葉によって造られ維持され完成されるのです。「光あれ！」という言葉で神はこの世を造られました。無からただ言葉だけで造られました。人は素材がなければ何かを作ることはできません。しかし神は何もないところから万物を造られるお方です。そして今なお創造の御業は続いているのです。今わたしどもの目の前に見えるもの世界の現象は、根本的には見えるものからできたのではないのです。見えるものは見えないものから造られ、見えるものは見えないものために存在しているのです。そして見えるものを存在させ、生かしているのも見えないものであります。

このことでよく引き合いに出される「星の王子さま」の最期の方で「大切なことは、みえないんだよ・・・」（内藤濯訳：彼は神奈川教区の教会と深い関係があるのをご存じの方も多いでありましょう）というセリフがあります。これはいわば見えないものが大切であるということです。

信仰とはこのような真実を確信することです。アブラハムのように神の言葉に従い勇気をもって決断して、そして信仰を杖としてこの世の荒野に見えない御国を目指して共に旅立ちましょう。